



Vol. 30からシリーズで連載し、10名の若者にインタビューした「はたらく若者」。職種や働き方もさまざまで、働くことに対する思いや考え方にも多様性があり、十人十色の生き方がうかがえました。

シリーズのまとめとなる今回は、当協会でも働くユースワーカーで、これまでの「はたらく若者」を振り返りながら、「はたらくこと」をキーワードに語りあいました。連載してきた若者と同世代である3人が語る「はたらく」から若者の今をみつめます。



木村 これまでの連載を読んで「何のために働くのか」が、お金のために働くタイプと、将来やりたいことを叶えるために前段階として今の仕事をしているタイプと2パターンあるなと思った。それでいうと私は、お金のために働いているかな。

田鹿 「自由と自立のため」と話していた若者がいて、とても共感した。去年社会人1年目で、完全に親の家計から自立できた1年だったけど「こんなに自由なんや！」と思いき、気持ちの面ですごく楽になった。私は、「働けなくなったら困るなあ」と思っているけど、どうですか？

佐藤 私は、お家が好きだから困らないかな。好きな本やゲームとご飯があれば生きていける！

木村 すごい(笑)。でもそうやって生きるためにはお金が必要だから、やっぱり働かないといけないうな。

佐藤 働かなくても食べていけるならそれがいいけど、それは無理だからね。

田鹿 なるほど。もし、パトロン

みたいな人が現れて、お家の中に好きなものを全部用意されて、外に出なくてもいいよと言われてたら、どうしますか？

佐藤 ……たぶん、それでも働くと思う。働き方はフレックスな形に変えるかもしれないけど。

田鹿 働くのは「外に出るため」なんですね。

佐藤 外に出て違う人と話をしないと、考え方が広げられなさそうなのがします。本はすごく好きだけど、自分と本の世界だけだと広がり得ない部分があるだろうなと思うから。お家が好きなのと同じくらい、変化を望んでいるかな。安心感も欲しいけど、やっぱりチャレンジもしないといけないうなと思う。

田鹿 木村さんはどうですか？

木村 私も働くかな。家で自分の好きなことをしてゆっくりする時間ですごく好きだけど、日常の中に面白いと思うこととか、ちょっと刺激が欲しいんですよね。たぶんずっと家にいたらそういうのって無いと思う。そういう意味では、お金を稼ぐためでもあるけど、変

化をつけるって意味でも働く場所はあると思う。なんもしてないな、わたし「って。働いてみて私が悟ったのは、私は終わりが好きなんだということ。「やったぞ！ 終わったー」という。学生時代に勉強や研究をしていた時は、はっきりとした区切りや終わりがなかったんですよ。仕事だと、事業が終わった日とかは、家に帰った時のテンションが最高です(笑)。

佐藤 なるほど、筋書きと終わりを求めているんだね。

木村 終わりがあってことは、あんまり考えたことが無かったな。

田鹿 私は、漂流してやってきたという感じです。大学では政策を専攻して、制度とか、人以外の仕組みについて学びました。学問とは別に、ボランティア活動などをしていく中で、自分が呼んでもらえるのは、人がいる場所だったと気づいて、人と関わるのは実は怖いんですけど、でも1回、生身の人間と触れ合ってみるかと思って、「これしかできないけど、やってみますー」という感じでこの仕事を選びました。

佐藤 やりたいことがあってこの仕事を選んだ？

田鹿 私は、漂流してやってきたという感じです。大学では政策を専攻して、制度とか、人以外の仕組みについて学びました。学問とは別に、ボランティア活動などをしていく中で、自分が呼んでもらえるのは、人がいる場所だったと気づいて、人と関わるのは実は怖いんですけど、でも1回、生身の人間と触れ合ってみるかと思って、「これしかできないけど、やってみますー」という感じでこの仕事を選びました。

木村 私はやりたいことを突き詰めた結果、就活で失敗したタイプです。

佐藤 何になりたかったの？

木村 なりたいもののがはっきりとあったわけじゃないけど、大学は福祉系の学科で、就活でも福祉の業界ばかりを受けていて。でも、受け

たところがダメだったり、いろんな職場を見に行ったりしているうちに、何がしたいのかよく分からなくなりました。やりたいことを求めていくスタイルは私には合わなかった。だから、どこでもいから入ってみて、とにかくやってみる方が自分にはあっていいるなと思う。

田鹿 人と関わりたいという思いはあったんですか？

木村 それは元からあった。あと、いわゆる企業のオフィスみたいなところで働いている自分がイメージ出来なかったかな。

佐藤 やりたいことがあってこの仕事を選んだ？

田鹿 私は、漂流してやってきたという感じです。大学では政策を専攻して、制度とか、人以外の仕組みについて学びました。学問とは別に、ボランティア活動などをしていく中で、自分が呼んでもらえるのは、人がいる場所だったと気づいて、人と関わるのは実は怖いんですけど、でも1回、生身の人間と触れ合ってみるかと思って、「これしかできないけど、やってみますー」という感じでこの仕事を選びました。

木村 いろいろあっていいんだな、です。働くことに対して勝手にハードルを高くしていたけど、働き始めると、転職経験がある人

佐藤 漂着してきたという感じ、すぐわかる。私は、教育学部出身で、アルバイトとかも教育学系のことをしていたから、この分野以外は無理だろうと思っていただけ、学校の先生になる自分ほしくりこなくて。仕事を選んだ理由は、全体的にぼんやりしているかもしれない。

田鹿 「これがやりたい！」と思って仕事を選んだ訳ではないけど、「これなら自分にもできるかな？」と選んで選んだという感じですね。

佐藤 やりたいことを追求できるといっても一つの選択だと思いうけど、別にやりたいことがなくても、のんびりだらりと生きていられるっていうことも大切なことかなとは思う。だから、どちらか一方にならないように、自分自身がありたいし、関わる人にもどっちが良いって言ってしまわないようにありたいなと思いますね。

木村 これまでの連載を読んで「何のために働くのか」が、お金のために働くタイプと、将来やりたいことを叶えるために前段階として今の仕事をしているタイプと2パターンあるなと思った。それでいうと私は、お金のために働いているかな。

田鹿 「自由と自立のため」と話していた若者がいて、とても共感した。去年社会人1年目で、完全に親の家計から自立できた1年だったけど「こんなに自由なんや！」と思いき、気持ちの面ですごく楽になった。私は、「働けなくなったら困るなあ」と思っているけど、どうですか？

佐藤 私は、お家が好きだから困らないかな。好きな本やゲームとご飯があれば生きていける！

木村 すごい(笑)。でもそうやって生きるためにはお金が必要だから、やっぱり働かないといけないうな。

佐藤 働かなくても食べていけるならそれがいいけど、それは無理だからね。

田鹿 なるほど。もし、パトロン

みたいな人が現れて、お家の中に好きなものを全部用意されて、外に出なくてもいいよと言われてたら、どうしますか？

佐藤 ……たぶん、それでも働くと思う。働き方はフレックスな形に変えるかもしれないけど。

田鹿 働くのは「外に出るため」なんですね。

佐藤 外に出て違う人と話をしないと、考え方が広げられなさそうなのがします。本はすごく好きだけど、自分と本の世界だけだと広がり得ない部分があるだろうなと思うから。お家が好きなのと同じくらい、変化を望んでいるかな。安心感も欲しいけど、やっぱりチャレンジもしないといけないうなと思う。

田鹿 木村さんはどうですか？

木村 私も働くかな。家で自分の好きなことをしてゆっくりする時間ですごく好きだけど、日常の中に面白いと思うこととか、ちょっと刺激が欲しいんですよね。たぶんずっと家にいたらそういうのって無いと思う。そういう意味では、お金を稼ぐためでもあるけど、変

田鹿 「これがやりたい！」と思って仕事を選んだ訳ではないけど、「これなら自分にもできるかな？」と選んで選んだという感じですね。

佐藤 やりたいことを追求できるといっても一つの選択だと思いうけど、別にやりたいことがなくても、のんびりだらりと生きていられるっていうことも大切なことかなとは思う。だから、どちらか一方にならないように、自分自身がありたいし、関わる人にもどっちが良いって言ってしまわないようにありたいなと思いますね。

木村 いろいろあっていいんだな、です。働くことに対して勝手にハードルを高くしていたけど、働き始めると、転職経験がある人

佐藤 漂着してきたという感じ、すぐわかる。私は、教育学部出身で、アルバイトとかも教育学系のことをしていたから、この分野以外は無理だろうと思っていただけ、学校の先生になる自分ほしくりこなくて。仕事を選んだ理由は、全体的にぼんやりしているかもしれない。

田鹿 「これがやりたい！」と思って仕事を選んだ訳ではないけど、「これなら自分にもできるかな？」と選んで選んだという感じですね。

佐藤 やりたいことを追求できるといっても一つの選択だと思いうけど、別にやりたいことがなくても、のんびりだらりと生きていられるっていうことも大切なことかなとは思う。だから、どちらか一方にならないように、自分自身がありたいし、関わる人にもどっちが良いって言ってしまわないようにありたいなと思いますね。

木村 いろいろあっていいんだな、です。働くことに対して勝手にハードルを高くしていたけど、働き始めると、転職経験がある人

佐藤 漂着してきたという感じ、すぐわかる。私は、教育学部出身で、アルバイトとかも教育学系のことをしていたから、この分野以外は無理だろうと思っていただけ、学校の先生になる自分ほしくりこなくて。仕事を選んだ理由は、全体的にぼんやりしているかもしれない。

田鹿 「これがやりたい！」と思って仕事を選んだ訳ではないけど、「これなら自分にもできるかな？」と選んで選んだという感じですね。

木村 いろいろあっていいんだな、です。働くことに対して勝手にハードルを高くしていたけど、働き始めると、転職経験がある人